

## 無電柱化事業

アナ： 「市長が語る 2022 三島」第10回の今日は、「無電柱化事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： さっそくですが、無電柱化事業というのはどのような事業なのでしょうか。

市長： 無電柱化事業は、電線類を地中に埋設するなどの方法で、道路の電柱をなくしていく取り組みです。

無電柱化の一つ目の目的は防災です。

皆様も、台風や地震によって倒れた電柱が道路をふさいでいる映像をテレビなどでご覧になったことがあると思います。

電柱の倒壊は、停電や通信障害を引き起こすだけでなく、災害時の救急輸送や復旧活動の妨げになるなど、被害の拡大につながります。

二つ目は、歩行者や車いすの方が安全で快適に通行できるスペースを確保することです。

三つ目は、三島市が進めるガーデンシティの取り組みにも関係しますが、良好な景観形成です。

アナ： 確かに、本町の大通りなどでは電柱や電線がなくなり、街並みが大きく変わりましたね。

三島市では、どのように無電柱化を進めているのでしょうか。

市長： 先ほどの無電柱化の目的を踏まえまして、災害時の緊急輸送路や市街地の幹線道路など、事業効果が高い道路を優先して進めております。

これまでに、下田街道の一部や三島駅北口交差点から簡易裁判所までの道路など約5.6キロメートルの無電柱化を実施済みで、

今後は「三島市無電柱化推進計画」に基づきまして、令和7年度までに、新たに約1.2キロメートルの無電柱化工事に着手することを目標としています。

アナ： 現在ほどの道路で無電柱化が進められているのでしょうか。

市長： 市内では現在、4箇所が無電柱化が進んでおりまして、

三島駅南口東街区再開発事業区域の沿線となる市道と

三島商工会議所西側の愛染の滝の沿線市道の一部を三島市が実施し、

三島駅南口の駅前交差点から市民文化会館までの県道と

三嶋大社西側の県道の一部を静岡県に実施してもらっております。

アナ： 道路の無電柱化はぜひ進めていただきと思いますが、どのような課題があるのでしょうか。

市長： 市民の皆様から、無電柱化を進めてほしいとのご意見をいただくことが

ありますが、無電柱化にも様々な課題があります。

電線共同溝を地中に埋設するという最も一般的な工法の場合、費用は1キロメートル当たり5億円以上かかると言われております。

また、電柱や電線は、電気・通信事業者の所有であり、多額の費用負担を含め、事業者の皆様のご協力が不可欠でありますし、沿道の皆様のご理解も欠かせませんので、無電柱化を一気に進めることは容易ではありません。

アナ： 仮に財源を確保できても、事業者や沿道にお住まいの方々などのご理解とご協力がなければ進めることが難しいということですね。

そのほかにも課題はあるのでしょうか。

市長： 市民の皆様からは、道幅が狭い道路の無電柱化を進めてほしいとのご意見をいただきますが、電線共同溝方式の場合、電柱を撤去しても、ボックス状の設備を一定間隔で道路上に設置しなければならないため、その場所の確保は悩ましい課題です。

アナ： 確かに、電柱がなくなっても、狭い道路に箱状の設備が設置されれば、歩行者の安全という面では課題が残りますね。

無電柱化に関する様々な課題に、今後どのように取り組んでいくのでしょうか。

市長： まず、費用の面ですが、電線共同溝を通常より浅い位置に埋設する工法やその他の工法の研究も進んでおりますので、よりコストを抑えることができる工法を積極的に取り入れてまいります。

また、特に、災害時に緊急輸送路となる道路では、新たな電柱の設置を減らすための施策、例えば道路法上の占用許可のあり方についても検討していく必要があると考えております。

アナ： 電柱や電線のない街並みは素晴らしいですね。

様々な課題もあると思いますが、今後もぜひ無電柱化を進めていただければと思います。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。